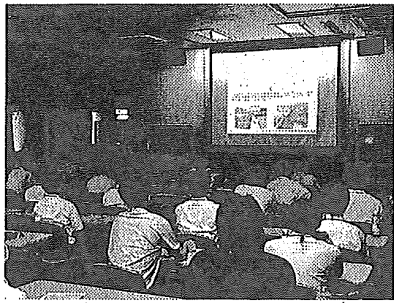


最優秀に木村有花氏、
友池昌俊氏を選定

建コン協九州が
若手技術者交流会

建設コンサルタンツ協会（建コン協）九州支部（田中清支部長）は8月29日、2023年度の若手技術者交流会を福岡市博多区の八重洲博多ビルで開いた。写真。ウェブ形式も含め約140人が参加。若手技術者が日頃の業務成果を披露し、発表の最優秀賞に「気候変動を考慮した緑川ダム再生方策の検討」と題し発表した木村有花氏（東京建設コンサルタンツ）、論文の最優秀賞に「津波浸水対策を目的とした海岸のオー



トフラップ式水門の耐震、耐津波設計」と題し発表した友池昌俊氏（協同エンジニアリング）が選ばれた。

開会に当たり同支部総務・企画部会の眞間修一部会長は「別の視点からの指摘があれば、新たな課題の発見につながり、自分の仕事の価値に気付く機会にもなる」と述べ、発表を技術力の向上を図る場とし、建設コンサルタンツ業界で働き続けるモチベーションにしたいと呼び掛けた。

引き続き若手技術者10人が発表を行った。今回から発表、論文でそれぞれ最優秀賞と優秀賞を選定した。

発表の優秀賞には「矢板式護岸の緊急復旧対応について」の岸航平氏（日本港湾コンサルタンツ）、「希少植物における移植方法および定量的評価の確立」の中谷郁也氏（長大）を選定。

論文の優秀賞には「国道拡幅／河川改修を考慮したPC単純プレテンホロー桁橋の詳細設計」の海部貴裕氏（日本工営）、「港湾施設設計におけるBIM／CIM活用事例紹介」の山本凌雅氏（八千代エンジニアリング）を選定した。